

くまがや自治連だより

ひろば

第7号

平成22年3月発行

明るく元気な熊谷を

副会長 茂 木 進 一

二〇一〇年を迎え、会員の皆様も、今年こそはと新たな気持ちで頑張っていることと思います。明るく元気な熊谷が我々の理想ですが、日本全体が未だにリーマンショックの後遺症に苦しんでいる中では、なかなか思うように行かないのが現実で、企業の倒産や凶悪事件等暗いニュースばかり目立ちます。そんな中、イチロー選手、松井選手、石川遼選手等スポーツ選手の大活躍は、我々の心を和ませてくれています。もう一つ熊谷市の財政状況が良好である、というのも我々市民にとっては大変うれしい話です。市長の公約に、スポーツの振興、子供の医療費無料化、環境保全対策等々いろいろあり、これらの実施には予算も必要となるため、健全財政維持の面からも大変かとは思いますが、是非継続して実施して欲しいと思います。我々自治会連合会としても、明るく元気な住み良いまちづくりに皆で協力して行きたいと思えます。

◇後世に語り継ぎたい◇

江南パークシティ自治会長 矢崎 賢 二

私が大里郡江南村に転居したのは、昭和五十九年八月である。夏の日差しに赤城山が緑に映え、車窓に荒川の涼風を受けた日も思い出の一頁となった。

昭和六十年には、江南村から江南町へ「躍動！夢とふれあいパワフル21」をテーマとした、新時代に相応しい調和の取れた田園都市化を図った行政運営に、住民は便利さを実感し、江南に住んで良かったと感じたものである。



大沼公園弁天橋付近

平成十五年には、国の施策で合併問題が提起され、熊谷市・大里町・妻沼町・江南町合併協議会が設置された。紆余曲折はあったが、住民の意思により、平成十九年一月二十七日に閉庁式を迎えることとなり、江南町

二十一年の歴史に幕を閉じた。万感胸に迫るとはこのことか。その後、二月に合併して熊谷市の一員となる。
現在、私は熊谷市自治会連合会の役員として、

また、江南パークシティ自治会長・江南自治会連合会の役員として、初代連合会長の柴征一郎氏のもと、二十四自治会長とともに今まで培ってきた運営の基となる「躍動！夢とふれあい」を大切に、頑張っている。

江南総合文化会館ピア内の図書館に足を運び、何気なく手にした「江南町歴史資料編4近代現代」の一冊、拾い読みではあるが、頁を追うことに興



うちわ祭

写真提供／熊谷市

味と驚きと感動を覚えた。私達と自治体が、江南地区の生活環境の将来を考える時、心に止めて置かなくてはならない大切な資料である。読み進めるうちに、江南町に住み始めた頃、生活に戸惑いを感じたことが思

い起こされる。江南町を住みよいまちにするためにたゆみない努力で築いてきた先人の達成した偉業こそ、江南地区の自治運営上からも活かしていきたい「後世に語り継ぎたいこと」である。

この土地に生活して二十五年、今では心の拠りどころとも言えるほどになった、夏の夜の熱狂、関東の祇園、熊谷うちわ祭とあついで熊谷の一語、古老の薦めの久下の富士、妻沼聖天様の例大祭、いずれも素晴らしいが、荒川流域の肥沃な田畑、南に赤松が点在する江南地区は、日本最古の銘が

刻まれた板碑が発見され、また、踊る埴輪が出土した地としても広く知られている。丘陵地帯に分布する古墳に古代人の生活が偲ばれる。

灌漑用の溜池が三十二と多く、田畑を潤しているが、江南最大の須賀広の大沼は、平成十六年に改修工事が終了し、島に架かる弁天橋も架け替えられて、朱の色が湖面に映え、その風情は、島の松の枝の緑に調和して絶景である。沼の公園に記念樹として植えられた桜の若木も、今春、一輪二輪の蕾をつけ、賑わいの桜花として愛でる日が待たれる。

このほかにも、五穀豊穰板井地区の八坂祭、成沢地区の天王祭、須賀広地区のささら獅子舞、上新田地区の屋台囃子等が、伝統芸能として伝承されている。

熊谷市内で発掘された土器等は、江南文化財センターに市の宝として保存され、先人の偉大さが垣間見られる。

本年は、こうなん祭りも第四回をむかえ、ホテル祭りも第二回をむかえる。先人の思いをホテルの灯に照らし、一つでも多く後世に語り継いでいきたい。



こうなん祭り

写真提供／江南商工会

◆秦自治会連合会◆

副会長 石井 信一

秦自治会連合会は、俵瀬地域の齋藤氏が連合会長で、秦小学校区連絡協議会、秦公民館運営協議会、敬老会実行委員会等の会長や各委員会の委員等を兼ねております。十五地域の自治会が四ブロックに分かれ、一〇〇班、加入世帯数九三二戸で構成されています。

秦地区は、旧妻沼町地区で熊谷市の北東部に位置し、利根川に沿って西は長井地区に隣接する大野地域、東は行田市に隣接する俵瀬地域となっています。

産業は、土地、水に恵まれ農耕が盛んで、米麦のほか葱、ほうれん草、大根、ニンジンなど野菜も多く栽培され、各方面に出荷されています。

自治会等の行事

●「めぬま祭り」への参加

毎年八月初旬には、「めぬま祭り」が行われ、秦地区の「大杉ばやし」の山車を幼稚園児が旧妻沼町内を曳き歩きますので、自治会長が参加してお手伝いをしております。

●地区敬老会の開催

九月中旬には、七十五歳以上の方を対象に公民館、民生委員、小学校の先生や生徒、また、地区のサークルやボランティア団体の方々にご支援をいただき、小学生の朗読、舞踊、3B体操、フラダンスなど盛り沢山で地区敬老会を開催しています。

●交通安全教室

高齢者の自転車による交通事故撲滅の観点から、秦地区交通安全協会と熊谷警察署のご協力をいただき、



交通安全教室

高齢者を対象とした「自転車乗り安全教室」が実施されました。各自治会長のほか三十五名の方が参加して、警察官から講習や実地指導を受けました。

●小学校区連絡協議会関係では、子供とのふれあいを大切にし、親子で参加する夏休み映画会、大学生の協力をいただいて地区内の施設「いこいの家」での「お泊り体験」、一緒になって花の苗木を植え、各地域に配置する「花いっぱい運動」、長寿会の応援による「親子での餅つき大会」や地域の自治会長、公民館分館長等が指導者となり、高学年生を対象に大根やニンジン、サツマイモの作付け実習などの「農業体験」も実施しました。

このほか、ソフトボール大会やこみゼロ運動の実践また秦地区ゴルフ大会などを実施しています。

地域のリサイクル活動

荒宿自治会では、資源の再利用とエコ活動を兼ねて、家庭で不要となった新聞紙、段ボールや、特に個人宅で処分困っている自転車やくず鉄等を年に二回位、市内の業者に引き取っていただき、地域の美化に努めるとともにその売上金を自治会費に充当しています。

秦地区が誇れるスポッを紹介しします

利根川の河川敷には、サッカーグラウンドが四面あります。このサッカー場では、毎年、全国大会の上位チームを含む四十八チームが参加して、全国高校女子招待サッカー大会「めぬまカップ」が開催されています。

◆日本一の滑空時間と飛行回数を誇る、妻沼グライダー滑空場◆

サッカーグラウンドを挟んで東に一、二〇〇メートル、西に一、五〇〇メートルの二本の滑走路があります。昭和三十七年に妻沼グライダー滑空場として開場しました。当時は、学生が走ってグライダーを引っ張り上げていましたが、現在は改造されたトラックのエンジンを利用して上空に引き上げており、上空約一、〇〇



妻沼グライダー

○メートルを時速約一〇〇キロで飛んでいるそうです。この滑空場では、関東大会のほか、毎年三月には、全国各地区を勝ち抜いてきた十二チームによる、大学日本一を決める「全日本学生グライダー競技選手権大会」が開催されています。

◆渡し舟◆

利根川の川岸には、戦国時代から上州群馬と武州熊谷を結ぶ街道として利用されていたという、『県道熊谷・館林線』の延長で、『県道として』航行されている「葛和田の渡し場」があります。

この渡し舟に乗る方法ですが、乗り場近くに黄色い旗が設置してあるので、その黄色い旗を揚げて合図をすると対岸から舟が迎えに来てくれます。乗船は無料で、一〇分ほどで群馬県側に着きます。

◆荻野吟子記念館◆

渡船場を後にして、利根川土手を行田市方面に約一三キロ下りますと、日本最初の女医となった荻野吟子生誕の地『俵瀬地域』になります。利根川堤防下に「荻野吟子生誕之地記念公園」があり、敷地内に「記念会館」があります。

昭和四十七年に『荻野吟子生誕の地碑』が、平成五年に『荻野吟子女史胸像』が建立されています。



荻野吟子生誕之地記念公園

◆男沼自治会連合会◆

出来島自治会長 望月 博

男沼自治会連合会は、熊谷市の北部を流れる坂東太郎とも言われる利根川の南岸と北岸に分かれており、六自治会七〇四世帯で構成されています。肥沃な土地に恵まれて、ハウス栽培を始め、ネギ、大和芋、人参等野菜の生産地として有名です。

自治会活動については、「あついで！男沼 人情あつく和と絆」を合言葉に、めぬま祭りや公民館事業に積極的に参加し、長寿会、校区連絡会を通じて、地区民体育祭参加、校庭の桜消毒、PTA活動支援等を行いながら、各地区の連絡を大事にし、話し合いと協力精神を基本として運営しています。

地区内には、間々田地区の伝統芸能「まんさく踊り」や男沼文化祭など、後世に受け継がれ、守られて行かなければならない行事が多い中で、今回は出来島地区で古くから行われている八坂神社の夏祭りについて紹介したいと思います。

出来島あばれ神輿について

出来島地区は地域住民が一体となつて、春は神社境内での桜祭り、秋は菊花展と敬老会等、普段からコミュニケーションの付き合いを大事にしています。中でも地区の夏を飾る行事に八坂祭りの神輿渡御があります。



出来島菊花展

昔から利根川の舟運が盛んな頃より舟に深くかかわる人が多く、

舟運の安全を願つて始まった様です。

出来島の地名についても、利根川右岸の乱流地帯にあり、一旦洪水になると村が水面に浮かぶ島のようになる事から名付けられたとの事です。神輿については、

明治の中頃に、利根川の対岸世良田の船乗り仲間より古い神輿を譲り受けた事に始まり、現在の神輿は昭和九年地元の棟梁高野次三郎氏の作です。昭和二十年、世情の悪化から中止のやむなきに至りましたが、その年、地区内に悪病が流行した事から、翌二十一年には復活し、それ以来、現在まで続けられています。



とんぼから飛び込む儀式

圧巻は、川面に立てた「トンボ」に競つてよじ登り、水の中へかけて次々に飛び込む儀式で、その勢いには悪病を退散させるにふさわしい生命の躍動感が見られ、緊迫と感動の連続です。



出来島子供神輿

その後「あばれ神輿会」の発足とともに広く市内にも知れ渡るようになりまし。

祭りの当日は家々を練り歩いた後、裏の堤防を乗り越えて一気に利根川にだれ込み、更に川の流れに逆らつて進みながら深みに向かいます。

夏祭り前夜祭について

「あばれ神輿会」の若者達により、焼きそば、かき水の無料サービスが行われ、小学生、PTA、お年寄りまで一体となつての練り込み囃子も最高に祭りを盛り上げ、八木節保存会の応援、カラオケ、民謡踊りと多彩です。こうした地区民全員参加型の行事を通じて、地域の活性化と協力関係を築くと共に、歴史と伝統ある行事を守り、伝えて、明るく住み良いまちづくりに努力して行こうと思えます。

編集後記

桜の便りが聞こえてくるこの季節は、出会いと別れの季節かなとも思います。卒業、入学、就任、退任等々、各自治会におかれましても役員交代等あろうかと思えます。退任される方は御苦労さまでした。新たに就任される方は、大変ですがよろしくお願い致します。

「ひろば」も第七号の発刊となりました。改めて、創刊号から読み直してみますと、各地区にそれぞれの伝統行事や祭りが有り、先人達の、その土地に対する思いが伝わって来る様な気がします。又、自治会活動も各地区で様々であり、自分達の住む地域は、自分達で住み良くしようとする思いが伝わって、先人達の思いと重なる様に思えます。今回も、たくさんの人から御寄稿いただき、大変感謝すると共に、これからも「ひろば」の御愛読をよろしくお願い致します。

副会長 矢島 輝治

計報

謹んでお悔やみ申し上げますと共にご冥福をお祈り申し上げます。

◆鈴木 半禄さん 元町第一自治会長・元町自治会連合会長

熊谷市自治会連合会副会長
平成二十一年十一月二十六日 逝去